

兵庫県こころのケアセンター 令和4年度実施分に係る
外部評価委員会 事業評価

評価対象事業	評価	所 見
研修事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の感染予防に留意し、WEB活用と対面形式を併用する形で目標を上回る受講者数となったほか、受講者アンケートの満足度も高く、保健・医療・福祉等、いずれの領域でも注目されている「複雑性PTSD」「支援職のためのセルフケア」をテーマとしての研修は受講者のニーズに合致している。 ・県外受講者が過去最高となり、最先端の技術が広域に普及することは極めて望ましいことであり、当センターの研修が必要とされていることが分かる。県外に広がっているニーズにも応え、今後とも多くの受講者と理解者を増やしていただきたい。
情報の収集 発信・普及 啓発事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・こころのケアシンポジウムのテーマに、近年トラウマ治療領域でもっとも関心が持たれている、STAIR/Narrative Therapyや、複雑性PTSDを設定するなど、トラウマ治療拠点施設としての情報発信は期待に添うものであり、参加者からの評価も高い。また、オンラインを併用することで多くの参加者が学ぶ機会を得ることができた点も評価できる。 ・ホームページのアクセス数が年間目標を大幅に上回り、10,000件を超えたことは大きく評価できる。ニーズが高まった「こころのケア」を深く、広く知っていただくためにも必要な事業であり、今後SNSの活用など、引き続き、幅広い方々へのわかりやすい情報発信、普及啓発活動を期待する。
連携・交流 事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災、熊本地震の継続支援に加え、新型コロナ、ウクライナ避難民支援と緊急事態のニーズにマッチした対応が来ているのは、当センターの知識技術力の表れと考える。オンラインも活用し、個別支援や関係機関へのコンサルテーションを実施するなど、積極的なアウトリーチ活動も評価できる。 ・災害派遣精神医療チーム（DPAT）においては、災害に備えるため、関係団体が参加しやすいようオンラインで研修を実施したほか、関西圏域DPAT連携体制の推進等、関係者の連携・交流の促進、広域的ネットワークの形成を前向きかつ積極的に取組まれており、高く評価される。
相談事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者支援、トラウマ、PTSDといった医療・相談機関等で対応しづらい複雑困難な事例の相談を多数受けており、相談延べ件数が昨年に比べて150件ほど増加している。相談内容もトラウマ・PTSDに関するものが91%と当センターの専門性を発揮している。インテーク件数が101件と目標70件を大幅に超えており、有効な心理カウンセリングが行えるよう努力している。 ・本人、家族が継続的に相談できるよう関係機関と連携を図った支援を行うなど、限られた人員、体制の中で非常によく対応しているが、事例が山積みになってセンター負担が大きくなりすぎないか心配する。

評価対象事業	評価	所 見
附属診療所の運営	S	<ul style="list-style-type: none"> ・受診件数、初診件数とも、ほぼ開設以後最高になっている。PE療法、TF-CBT、EMDR、CPT 認知処理療法、STAIR/NST 等通常の医療機関ではできないトラウマに特化した治療が可能な施設であることから複雑性PTSDなどの治療困難な患者のニーズに十分応え、当施設の社会貢献は計り知れないものがあると考えられる。 ・専門治療機関としての責任を果たすべく、今後も継続されることを期待するが、長期化・困難化する患者の増加に応え、他の事業に従事しながらの診療により、スタッフ・患者に負担が生じないか危惧される。
ヒューマンケアアカレジ事業（音楽療法士養成講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で施設実習が十分に出来ず、養成ができなかった音楽療法士だが、オンラインセッションの講義を取り入れるなどの工夫をし、音楽療法士の養成ができた。 ・専門講座修了者が 29 人と目標の 20 名を大幅に超えることができ、評価に値する。
ヒューマンケアアカレジ事業（実践普及講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者合計数は目標を上回り、またアンケートで有効と回答した率についても90%を超しており、期待通りの成果を上げたと言える。 ・本件講座は県民を対象としており、引き続き有用であることから講座内容の充実と広報により、受講者増に努めて頂きたい。 ・県民の健康作りや地域福祉の向上につながる講座内容の設定により、継続して講座の実施が期待される。
安定的な運営のための収支バランスの確保等	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころのケア」に対する組織ニーズ、事業ニーズが高まっている中で、様々な工夫と知恵により、収入を増やす一方で、2年連続で光熱水量を減らす等の収支バランスを考慮しての効果的・効率的な業務運営を行っている点は高く評価される。 ・スタッフの働き方改革・ワークライフバランスが進められるなか、県民のみならず地域の多種多様なニーズに応えるための体制（人員、予算等）整備を強く期待したい。
研究調査に係る総合的な評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・長期研究の「トラウマインフォームドケアの普及に関する研究」について、体系的な研修システムの在り方を検証するとともに、「災害後の子どものこころのケアのための人材育成についての研究」について、わが国に適した効果的な人材育成方式を検討し、現場で活かせるように普及いただきたい。また、「公的機関における災害時の支援者支援に関する研究」は、災害が増えている中では非常に重要なテーマであり、サイコロジカル・ファーストエイドの5つの本質的要素に沿った検討・さらなる発展に期待する。短期研究においても、今後もタイムリーで現場活動に直結する研究を続けていただきたい。 ・競争的資金による研究では、5件の外部研究資金による研究に取り組みされており、センターの研究者と研究テーマが高く評価されていることが分かる。

(評価基準)

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。